



キヤノンとステークホルダー

お客様とともに



ユニバーサルデザインを追求したインクジェットプリンター「PIXUS MG6130」

お客様の豊かなフォトライフを支援する オンラインフォトサービスを提供

キヤノンは、お客様により豊かなデジタルフォトライフを楽しんでいただけるよう、オンラインサービス「CANON iMAGE GATEWAY (キヤノンイメージゲートウェイ)」を日本、米国、イギリス、ドイツなどの計19カ国で展開。Webサイト上で自分の写真を友人らと共有することのできる「オンラインアルバム」や、写真入りポストカードやカレンダーを作製できる「PIXUSプリントプロジェクト」など、多彩なサービスを提供しています。

また、日本では、Webサイト上でオリジナルのフォトブックの制作から、公開、印刷、配送までの“出版体験”を提供するオンラインフォトサービス「PHOTOPRESSO (フォトプレzzo)」をスタート。今後は日本以外にも展開していく予定です。



「CANON iMAGE GATEWAY」サイト画面

全社でユニバーサルデザインプロジェクトを推進

年齢や性別、国籍、障がいの有無などを問わず、あらゆる人にとっての使いやすさを追求した「ユニバーサルデザイン」。キヤノンは、“人にやさしい製品づくり”の一環として、ユニバーサルデザインの考え方を導入しています。

2009年には、その取り組みをさらに推進し、お客様に発信することを目的として、「全社ユニバーサルデザインプロジェクト」を発足。ユニバーサルデザインに関するポリシー案を策定し、各事業の製品開発部門にユニバーサルデザインのアイデアを提案しました。

さらに2010年には、ユーザーの身体特性や使用場面でのさまざまな課題を整理した冊子を社内開発部門に配布し、意識啓発に努めたほか、お客様にキヤノンの取り組みをご理解いただくための冊子を製品展示会などで配布しました。

今後は、さらに幅広いユーザーの満足度向上をめざして、あらゆるお客様が快適に使用できる製品の開発を推進し、新しい商品価値を創出していきます。

オフィスネットワーク複合機 「imageRUNNER ADVANCE」シリーズの例



大きく明るい液晶タッチパネルは、表示メニューのカスタマイズや角度調整も可能



ユーザーの声を認識して基本操作をサポートする「音声操作」

インクジェットプリンター「PIXUS」シリーズの例



操作パネルのGUI(グラフィカル・ユーザー・インタフェース)の視認性を向上



インク切れの可能性をLEDの点滅で表示



株主・投資家とともに



機関投資家向け経営方針説明会で、経営方針や戦略を説明

財務体質の改善を反映して配当金を増配

キャノン(株)は、配当を中心に、株主への安定的かつ積極的な利益還元に取り組むことを基本方針としています。

2010年12月期は、景気回復を背景に、目標通り大幅な増益を達成するとともに、キャッシュ・フロー経営の徹底により手元資金も拡大することができました。こうした状況を鑑み、1株当たりの年間配当を、前年度より10円増配となる120円としました。

投資家向け情報サイトをリニューアルし、個人投資家向けコンテンツを充実

キャノンは、経営方針や戦略などを株主や投資家の方々により深く理解いただくために、IRイベントや投資家向けの取材対応に加えて、Webサイトを積極的に活用した適切な情報開示に努める必要があると考えています。

2010年には、投資家向け情報サイトの信頼性とわかりやすさの向上を図るべく、株主・投資家の視点に立って全面的なリニューアルを実施しました。

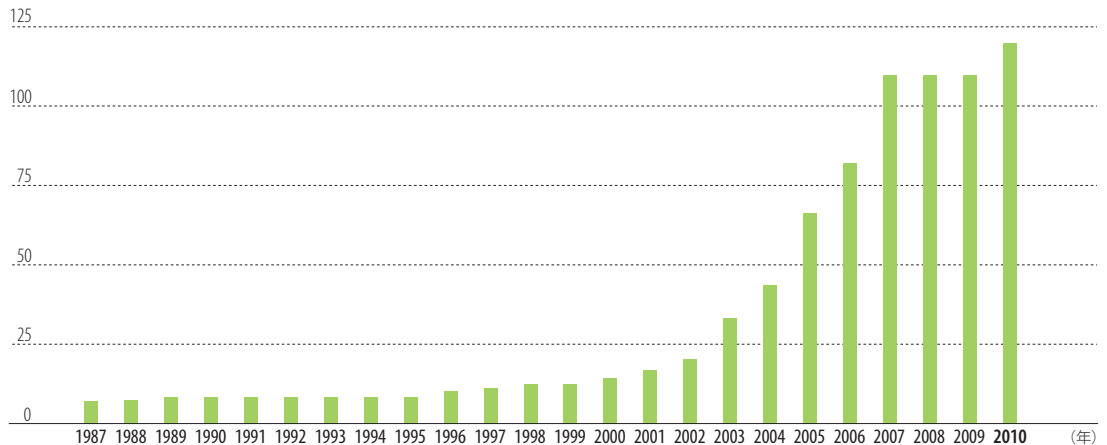
リニューアルにあたっては情報整理とナビゲーションに重点を置き、経営方針や投資家説明会など、投資家の関心の高い情報にアクセスしやすいよう工夫しました。また、個人投資家の方々の疑問に答えるため、企業理解のためのコンテンツを充実させました。



「投資家向け情報 個人投資家の皆さまへ」サイト画面

1株当たりの年間配当金の推移

(円)



※ 2006年6月30日時点の株主に対し、普通株式1株につき1.5株の割合で分割しました。
1株当たりの年間配当金は分割後のベースに換算して表示しています。



キャノンとステークホルダー

サプライヤーとともに



サプライヤーとの対話を深め、協力関係を強化

サプライヤーに対して 社会的責任への取り組みを依頼

キャノンは、自社のみならず、サプライチェーンまでも含めて社会的責任を果たしていくために、キャノンの調達活動における基本姿勢をサプライヤー各社に理解いただけるよう努めています。その一環として、2009年11月、Webサイトに「お取引先へのお願い」のページを公開。環境・人権・労働・コンプライアンスなどに関するサプライヤーへの要望を掲載しています。

2010年は、世界各地で開催されている説明会などにおいて、これらの要望とその趣旨をサプライヤー各社に説明しました。

今後も、サプライヤーとの協力関係を強化しながら、サプライチェーン全体を通じて社会の期待・信頼に応える事業活動を推進していきます。

「お取引先へのお願い」項目

1. 人権・労働・安全衛生をはじめとした各種法令を遵守すること。
2. 「よき企業市民」として社会の発展に貢献すること。
3. 優越的地位の濫用等企業としての社会的責任に反する行動を禁止し、反社会的勢力との関わりを遮断して企業倫理の徹底を図り、公正・公平かつ透明性の高い取引をすること。
4. キャノングリーン調達基準書の遵守及び二酸化炭素の排出削減活動を推進し、環境保全に十分配慮した生産体制を構築すること。
5. 顧客情報、個人情報の保護に十分配慮し、取引を通じて知り得た情報等を厳格に管理すること。
6. 継続的な取引のできる財務体質と品質・コスト・納期・技術における高い水準が維持できるようにたゆまぬ改革を推進すること。

「紛争鉱物 (Conflict Minerals)」に関する情報開示

アフリカのコンゴ民主共和国およびその隣接国から産出されるタンタル、すず、金、タングステンは、コンゴ民主共和国東部における人権侵害をとまなう紛争と密接な関係があるとして、「紛争鉱物」と呼ばれています。

米国においては、2010年7月21日、金融改革をめぐって制定されたドッド・フランク法 (Dodd-Frank Wall Street Reform and Consumer Protection Act) に「紛争鉱物」に関する規定が盛り込まれ、米国

に上場する企業で「紛争鉱物」を使用する者は、近い将来、その使用状況などを開示することが義務づけられました。

キャノンは、製品の原材料として購入している物品に「紛争鉱物」に該当するものがあるかどうかの調査を開始しました。キャノンは、ドッド・フランク法および米国証券取引委員会 (Securities and Exchange Commission) が策定予定の開示ルールを遵守すべく努力していきます。



キヤノンとステークホルダー

従業員とともに



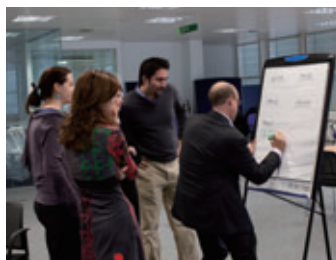
キヤノンヨーロッパで異文化交流研修を実施

欧州拠点で異文化交流研修を開催

全世界に拠点を設けているキヤノンでは、国籍や人種、言語、文化の異なる従業員たちが、互いの個性を尊重し合える、多様性に配慮した職場環境・企業文化づくりに注力しています。

複数の国・地域にまたがる拠点を統括するキヤノンヨーロッパでは、文化の多様性を理解し、異文化のなかでの業務遂行方法を学ぶための機会として、「Cross Cultural Awareness Workshop (異文化を知るための集合研修)」を開催しています。これは、文化問題の分析ツールを用い、参加者同士が議論しながら、異文化間に生じるさまざまな問題の解決策を見つけていく研修です。

2010年には、イギリス、オランダ、ドイツ、オーストリアの4拠点で計14回開催され、合計で約280名が参加しました。開催拠点、参加者ともに、前年よりも



他地域の文化を学ぶ参加者

大幅に増加し、異文化交流への意識も高まっています。今後も継続的に開催していく予定です。

中国・ベトナムの管理職を対象とした研修を実施

キヤノンは1980年から、世界中のグループ会社のマネージャーを対象に、グループの一員としての自覚とグループ視点でのマネジメントレベルの向上を目的とした「東京セミナー」を実施しています。

2009年からは、中国での急速な事業拡大を背景に、中国グループ会社のアシスタントディレクターおよびシニアマネージャークラスを日本に招き、「東京セミナー中国版」を開始しました。通常の東京セミナーでは英語を使用していますが、中国版は中国語を使用します。2010年も引き続き開催し、20名が参加。キヤノンの企業理念や事業戦略、異文化交流などに関する研修を行いました。

さらに、2010年は主要生産拠点の一つであるキヤノンベトナムの管理者の育成を目的に、「東京セミナーベトナム版」を開催し、マネージャークラスを中心に12名が参加しました。

今後も、継続的にセミナーを開催していきます。



東京セミナー中国版



キャノンとステークホルダー

さまざまな人々とともに



上海万博で綴プロジェクトの高精細複製品3作品を展示協力

「綴プロジェクト」を推進しています。キャノンの最新のデジタル技術と京都伝統工芸の技との融合により、オリジナルの文化財に限りなく近い高精細複製品を制作。「2010年上海国際博覧会」(「上海万博」)の日本館では、国宝「風神雷神図屏風」などの高精細複製品3作品の展示協力を行いました。

大学・研究機関との協働

大学・研究機関と協力し 遺伝子診断装置の開発を推進

キャノンは、遺伝子の個人差に起因する病気や、薬の副作用、効き目を検査できる遺伝子診断装置の開発にアメリカで取り組んでいます。

2010年、大学や研究機関と共同で実証実験を開始。11月には米国ユタ大学に試作機を設置しました。2012年度中には設置先をさらに増やし、性能評価やアプリケーションの共同開発を行い、2013年の製品化をめざします。

官公庁・自治体への協力

中国の郵政機関が実施する 上海万博来場者向けはがき・切手シート印刷サービスに協力

キャノンは、2010年に開催された上海万博において、上海郵政局が実施した、はがき・切手シートのカスタマイズ印刷サービスをサポートしました。これは、来場者が自分で撮影した写真を使用して、オリジナルのはがきや切手シートが作成できるサービス。印刷にはキャノンのデジタルプロダクションプリンターが使用されました。



上海郵便局内でキャノンのデジタルプロダクションプリンターを使用

地域社会への貢献

赤十字社のパートナーとして青少年を支援・救済する各種プログラムをサポート

キャノンヨーロッパは、赤十字社の活動に賛同し、長年にわたりチャリティイベントに協賛するなどのサポートを行っています。2006年に赤十字社とのパートナー契約を締結してからは、赤十字社が展開する青少年のための支援・教育プロジェクトに積極的に協力するなど、支援活動を拡大しています。

2010年も、青少年を対象としたHIV/AIDSに関する情報提供・教育活動プログラム(スペイン赤十字社)や、貧困・移民差別などに苦しむ青少年を対象としたポジティブイメージ教育プログラム(英国赤十字社)などを支援しました。



スペイン赤十字社のHIV/AIDSに関する情報提供・教育活動プログラム

NGO・NPOとの協働

日本の文化財を未来に継承する「綴プロジェクト」を推進

キャノンは、2007年から特定非営利活動法人京都文化協会と共同で、日本の貴重な文化財の保存と高精細複製品の活用を目的とした社会貢献活動